就任ご挨拶

内閣官房長官・沖縄開発庁長官
青木幹雄

この度、小渕第二次改造内閣の発足に伴い、内閣官房長官・沖縄開発庁長官を拝命いたしました。沖縄をめぐる諸課題は、本内閣においても引き続き重要課題として位置付けられており、沖縄担当大臣の職責と併せ、沖縄対策を総合的、一体的に推進する任を担うこととなりました。本年六月には「沖縄経済振興二十一世紀プラン」の中間報告が沖縄政策協議会において取りまとめられ、また、来年七月には沖縄県において「主要国首脳会議（サミット）」の開催が予定されるなど、沖縄県にとって極めて重要なこの時期に、沖縄開発庁長官を拝命いたしましたことは、私にとって大変な喜びであると同時に、その責任の重さを痛感している次第であります。

政府は、これまで三次にわたる沖縄振興開発計画を策定し、これに基づき総額六兆円を超える国費を投入するなど、沖縄の振興開発のための諸施策を積極的に推進してまいりました。そしてそれらの諸施策と県民の方々の不断の努力と相まって、本土との格差も次第に縮小するなど、総体として着実に発展しているところであります。

しかしながら、所得格差、産業振興や雇用、米軍基地問題など、沖縄はなお解決しなければならない多くの課題を抱えており、沖縄問題の解決は、いわば未だ道半ばであります。

政府としては、本土復帰後、米軍施政下にあった同じ二十七年の歳月を経て、かつ、間近に二十一世紀を臨むというこの節目の時期にあって、沖縄の明るい未来の開拓にわずかなりとも貢献すべく、県や市町村との連携、協力のもとこれらの課題解決に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。また、沖縄県におけるサミットの開催は、二十一世紀の沖縄の未来を象徴するものであり、その成功は、沖縄の存在を内外にアピールする上においても、大きな意義を持つものであります。沖縄県を始め地元自治体と十分連携・協力し、サミットの成功に向け万全を期してまいりたいと考えております。

沖縄開発庁といたしましては、今後とも第三次沖縄振興開発計画を着実に推進するとともに、沖縄経済振興二十一世紀プラン中間報告に示された施策の展開を図り、引き続き本土との格差を是正し、自立的発展のための基礎条件が逐次整備されるよう努力してまいります。特に、①沖縄の豊かな自然環境と独特の歴史や伝統文化など観光資源を有機的に関連させ、観光産業の充実発展を図ること、②豊かで優秀な人材を生かし、特別自由貿易地域制度等の諸制度を最大限活用した特色ある産業の振興を図ること、③我が国とアジア・太平洋諸国との交流の拠点となるべく、地理的特性を生かした南の交流拠点の形成を図ることの三つを振興開発施策の柱と位置付け、沖縄の特性を生かした施策の展開を図っていくべきだと考えております。

ところで、近年、国政の中で沖縄の振興開発施策の重要性が増大する中、沖縄開発庁の役割は益々重要なものとなっております。とりわけ、沖縄総合事務局は、沖縄における国の総合出先機関として、県民の身近な機関として振興開発の業務を総合的、一体的に遂行しており、沖縄県民の期待も極めて大きなものがあります。職員各位においては、改めて自らの使命のありように思いを馳せていただき、一層の高みと広がりのある形で業務に精励していただくとともに、県民に親しまれる運営にも一層努めていただきたいと思います。

御承知のとおり、来年のサミットまでに守礼門の図柄を組み入れた二千円券が発行されることとなりました。このことは、小渕総理の沖縄に対する情熱の現れであると考えておりますが、小渕総理からも「沖縄は大事だから一緒にしっかりやろう。」と言われております。私としては、小渕総理や野中前長官をはじめとする歴代長官の沖縄に対する溢れんばかりの情熱、熱意をしっかりと引き継ぎながら、沖縄県や市町村、関係団体の方々をはじめ沖縄県民の方々と一体となって、その期待に十分応えられるよう、微力ではありますが誠心誠意、全力を挙げて取り組んでいく決意を申し上げ、御挨拶といたします。